

石造笠塔婆

この石造笠塔婆は、無量光仏である阿弥陀如来の浮き彫りで飾られている。阿弥陀如来は日本における最大の仏教信仰の一つである極楽浄土信仰の中心の仏様である。その教えは無限の輪廻転生からすべての生き物を救うことを誓っている。彫刻の阿弥陀様は蓮の花に座った姿で描かれている。それは、泥だらけの濁った池から蓮が成長するように、衆生が霊的修行を通じて存在を超越する力を象徴している。

石造笠塔婆は、その形状からそれが作られた時期を伝えている。13 世紀に禅宗の建築様式が中国から伝わった後、日本で好まれた大陸起源のデザインの特徴である凹みの浮彫の外側の境が花頭形に彫られている。柱の緩やかに反った「傘」の美しい細部は、鎌倉時代（1185～1333）の特徴である。上部の涙のしずくのような形の石は、如意輪観音に抱かれた希望に満ちた宝珠を表している。